

「三宅島非帰島住民の生活状況についてのアンケート調査」結果報告

配布世帯数：105 世帯、回収世帯数 30 世帯 回収率：28.6%

(平成 23 年 10 月 20 日配布・同年 12 月 5 日回収終了)

A. あなたご自身のことについて（あてはまるものを選んで○を付けてください）

1. 年齢（ ）歳

- ・ 30 代 1 人 (3.3%)    ・ 40 代 1 人 (3.3%)    ・ 50 代 4 人 (13.3%)
- ・ 60 代 5 人 (16.6%)    ・ 70 代 7 人 (23.3%)    ・ 80 代以上 11 人 (36.7%)
- ・ 無回答 1 人 (3.3%)

○回答者の 8 割弱 (76.6%) が 60 歳以上である。

ちなみに、第 1 回アンケート (2006 年 11 月公表、160 世帯配布・50 世帯回収：回収率 31%) によれば、回答者の 7 割 (70.0%) が、60 歳以上である。また、第 2 回アンケート (2009 年 1 月公表、114 世帯配布・48 世帯回収：回収率 42.1%) によれば、回答者の 4 分の 3 (75.0%) が、60 歳以上である。したがって、アンケートの回数を重ねるにつれて、回答者の年齢が上昇していることがわかる。

2. 性別      ① 男 14 人 (46.7%)      ② 女 16 人 (53.3%)

○回答者の性別は、女性がやや多い。

ちなみに、第 1 回アンケートによれば、回答者の男女ほぼ同じ割合 (男 52%：女 48%) である。また、第 2 回アンケートによれば、男性がやや多い (男 52.1%：女 43.8%)。したがって、どのアンケートにおいても、回答者の男女比は、ほぼ等しい。

3. 現在、一緒に住んでいるご家族の方は、誰ですか。

- 1. 配偶者 11 人 (36.7%)    2. 子ども 4 人 (13.3%)
- 3. 父 0 人 (0.0%)    4. 母 4 人 (13.3%)    5. 祖父 0 人 (0.0%)
- 6. 祖母 0 人 (0.0%)    7. 孫 0 人 (0.0%)    8. 一人暮らし 13 人 (43.3%)
- 9. その他 2 人 (6.7%) (具体的に：夫の母、介護施設に入所、病院に通うため)

○回答者の 8 割が、夫婦 2 人暮らし (36.7%) か一人暮らし (43.3%) である。

ちなみに、第 1 回アンケートによれば、夫婦 2 人暮らしが 4 割強 (42%)、一人暮らしが 3 割弱 (28%) である。

また、第 2 回アンケートによれば、夫婦 2 人暮らしが 5 割弱 (45.8%)、一人暮らしが 3 割弱 (27.1%) である。したがって、第 3 回のアンケートでは、一人暮らしが多くなっていることがわかる。

4. 現在、別居して暮らしているご家族の方は、いますか。

- 1. いる 14 人 (46.7%)    2. いない 15 人 (50.0%)    ・ 無回答 1 人 (3.6%)

○回答者の 5 割弱に別居している家族がいる。

ちなみに、第 1 回アンケートによれば、別居家族のいる回答者が 5 割強 (50%)、また、第 2 回アンケートでは、5 割弱 (47.9%) である。したがって、どのアンケート結果においても、回答者の 5 割前後に別居している家族がいることがわかる。

4-1. いると答えた方のみお答えください。それは、誰ですか。

- 1. 配偶者 2 人 (14.3%)    2. 子ども 10 人 (71.4%)    3. 父 0 人 (0.0%)
- 4. 母 4 人 (28.6%)    5. 祖父 0 人 (0.0%)    6. 祖母 0 人 (0.0%)    7. 孫 3 人 (21.4%)

※ %の分母は、「いる」と回答した 14 人

○別居している家族の約7割(71.4%)が、子供である。また、3割弱(28.6%)が母親、1割強(14.3%)が配偶者である。

ちなみに、第1回アンケートによれば、子どもが6割強(64%)、配偶者が5割強(52%)である。また、第2回アンケートでは、子どもが6割弱(56.5%)、配偶者が約3割(30.4%)である。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートに比べて、別居している家族のうち子供の割合が一番多く、配偶者の割合が一番少ないことがわかる。

5. 避難前の島での主な仕事は(あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください)

- |                  |                 |                  |
|------------------|-----------------|------------------|
| 1. 自営業 2人 (6.7%) | 2. 会社員1人 (3.3%) | 3. 公務員2人 (6.7%)  |
| 4. 農業 0人 (0.0%)  | 5. 漁業1人 (3.3%)  | 6. 無職15人 (50.0%) |
| 7. その他6人 (20.0%) |                 |                  |

(具体的に: JA委託・パート・公務員退職後嘱託・土木工・福祉就労)

・無回答3人 (10.0%)

○回答者の半数(50.0%)が、避難前に無職であった。また、2割(その他6人(20.0%))が、非正規雇用である。

ちなみに、第1回アンケートによれば、避難前の島での仕事は、無職が3割強(34%)、自営業が2割強(22%)、その他2割(20%)である。また、第2回アンケートでは、回答者の約4割(41.7%)が無職であり、約3割(31.2%)が自営業である。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートに比べて、避難前に無職、また、不安定な職業に就いていた回答者の割合が多いことがわかる。

6. 現在の主な仕事は(あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください)

- |                   |                                 |                 |
|-------------------|---------------------------------|-----------------|
| 1. 自営業1人 (3.3%)   | 2. 会社員1人 (3.3%)                 | 3. 公務員1人 (3.3%) |
| 4. 無職 21人 (70.0%) |                                 |                 |
| 5. その他3人 (10.0%)  | (具体的に: パート・福祉就労) ・無回答3人 (10.0%) |                 |

○回答者の7割が、現在、無職である。

ちなみに、第1回アンケートによれば、現在の職業は、無職が7割弱(66%)である。また、第2回アンケートでは、回答者の7割弱(66.7%)が無職である。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートと比べて、無職の回答者の割合が、若干多いことがわかる。

7. 避難前に島で居住していた地区

(あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください)

- |                           |                        |                  |
|---------------------------|------------------------|------------------|
| 1. 神着7人 (23.3%)           | 2. 伊豆4人 (13.3%)        | 3. 伊ヶ谷3人 (10.7%) |
| 5. 阿古 9人 (30.0%)          | 6. 坪田(高濃度地区) 0人 (0.0%) |                  |
| 7. 坪田(高濃度地区以外) 3人 (10.0%) | ・無回答4人 (13.3%)         |                  |

○回答者の3割(30.0%)が、避難前に阿古地区に居住していた。また、神着地区に2割強(23.3%)の回答者が居住していた。

ちなみに、第1回アンケートによれば、坪田が3割強(34%)、神着が3割(30%)、阿古が2割弱(18%)である。また、第2回アンケートでは、神着が2割強(22.9%)、坪田(高濃度地区以外)が2割強(22.9%)と坪田高濃度地区が約2割(20.8%)、阿古地区が約2割(20.8%)である。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートと比べて、避難前に阿古地区に居住していた回答者の割合が、多いことがわかる。

8. 現在居住している都道府県・市区町村と住宅について具体的にご記入ください。また、都道府県と市区町村のうち、あてはまるものに○をつけてください。

|                                                          |
|----------------------------------------------------------|
| (1) 現在のご住所 _____ 都・道・府・県 _____ 市・区・町・村                   |
| <都道府県> 東京都 27人 (90.0%) ・無回答3人 (10.0%)                    |
| <市区町村> ・北区 5人 (16.7%)                                    |
| ・練馬区3人 (10.0%) ・府中市3人 (10.0%) ・八王子市3人 (10.0%)            |
| ・大田区2人 (6.7%) ・町田市2人 (6.7%) ・武蔵村山市2人 (6.7%)              |
| ・江東区1人 (3.3%) ・杉並区1人 (3.3%) ・東村山市1人 (3.3%) ・日野市1人 (3.3%) |
| ・品川区1人 (3.3%)                                            |
| ・無回答5人 (16.7%)                                           |

○回答者の 9 割 (90.0%) が東京都内に居住している。2 割弱 (16.7%) が、北区に、1 割 (10.0%) が練馬区・府中市・八王子市に居住している。

ちなみに、第1回アンケートによれば、8割強 (82%) の世帯が、東京都に居住しており、26の市区町村にばらばらに居住している。また、第2回アンケートでは、9割弱 (89.6%) が東京都内に居住しており、1割強 (12.5%) が府中市に、約1割 (10.4%) が八王子市に居住している。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートと比べて、北区に居住している回答者の割合が、多いことがわかる。

9. 避難前の島での住宅は (あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください)

|                                |                    |
|--------------------------------|--------------------|
| 1. 持ち家 20人 (66.7%)             | 2. 村営住宅 3人 (10.0%) |
| 3. 社宅や公務員住宅1人 (3.3%)           | 4. 借家1人 (3.3%)     |
| 5. その他1人 (3.3%) (具体的に: 親の家に同居) | ・無回答3人 (10.0%)     |

○回答者の 7 割弱 (66.7%) が、避難前は島内で持ち家に住んでいた。

ちなみに、第1回アンケートによれば、避難前の島での住宅は、7割 (70%) が持ち家、また、第2回アンケートでは、7割強 (75.0%) が持ち家に住んでいた。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートと比べて、避難前に持ち家に住んでいた回答者の割合が、若干小さいことがわかる。

10. 現在の住宅は (あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください)

|                                                          |                         |
|----------------------------------------------------------|-------------------------|
| 1. 持ち家5人 (16.7%)                                         | 2. 都・県等の公営住宅18人 (60.0%) |
| 3. 社宅や公務員住宅 0人 (0.0%)                                    | 4. 借家0人 (0.0%)          |
| 5. その他4人 (13.3%) (具体的に: 介護施設・借地上の持家 (一年後に土地を返さなければならない)) | ・無回答3人 (10.0%)          |

○回答者の 6 割 (60.0%) が、現在、公営住宅に、2 割弱 (16.7%) が持ち家に居住している。

ちなみに、第1回アンケートによれば、4割強 (48%) が公営住宅、持ち家が2割 (20%) である。また、第2回アンケートでは、5割強 (52.1%) が公営住宅、持ち家が3割弱 (29.1%) である。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートと比べて、現在、公営住宅に住んでいる回答者の割合が、大きいことがわかる。

## B. 現在の生活状況

### 1 1. 現在のご家族の収入の有無についてお尋ねします。

(あてはまるものすべてを選んで○をつけてください)

#### 1 1-1 収入のある方

1. 給与 5人 (16.7%)    2. 年金20人 (66.7%)    3. 生活保護3人 (10.0%)  
4. 家賃収入等3人 (10.0%)    5. 事業収入1人 (3.3%)  
6. その他3人 (10.0%) (具体的に：)    ・無回答3人 (10.0%)

○回答者の7割弱(66.7%)が、年金を収入源としている。また、給与が2割弱(16.7%)、1割(10.0%)が生活保護を受けている。他方で、1割(10.0%)が、家賃収入等を得ている。

ちなみに、第1回アンケートによれば、年金が6割弱(58%)。給与所得のある世帯が2割強(22%)、生活保護が6%である。また、第2回アンケートでは、年金が6割強(64.6%)、給与が約2割(20.8%)、事業収入が約1割(10.4%)、生活保護が2.1%である。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートと比べて、現在、年金と生活保護を収入源としている回答者の割合が、若干大きいことがわかる。

#### 1 1-2 現在収入のない方

1. 預貯金の取り崩し 5人 (16.7%)    2. 家族からの援助 3人 (10.0%)  
3. 借り入れ 3人 (10.0%)  
4. その他 1人 (3.3%) (具体的に：子供の給与)    ・無回答 3人 (10.0%)

○回答者の2割弱(16.7%)が預貯金の取り崩しで、また、1割(10.0%)が、家族からの援助と借り入れで、生計を立てている。

ちなみに、第1回アンケートによれば、預貯金の取り崩しが2割強(22%)。家族からの援助は6%、借り入れ0%である。また、第2回アンケートでは、預貯金の取り崩しが2割弱(18.8%)、家族からの援助は4.2%、借り入れ0%である。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートと比べて、現在、預金の取り崩しで生計を維持している回答者の割合が、若干小さいが、家族からの援助が若干大きく、また、借り入れで生計を維持している回答者が初めて出現したことがわかる。

### 1 2. 1年前に比べて生計はいかがですか

(あてはまるものを一つだけ選んで○をつけてください)

- |                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. とても苦しくなった4人 (13.3%)    2. 少し苦しくなった11人 (36.7%)<br>3. 同じくらいである 12人 (40.0%)<br>4. よくなった 0人 (0.0%)    ・無回答3人 (10.7%) |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

○回答者の5割が、生計が1年前と「苦しくなった(とても+少し)」、4割(40.0%)が「同じくらい」、と答えている。「よくなった」はない。

ちなみに、第1回アンケートによれば、「苦しくなった(とても+少し)」が6割強(66%)。「同じくらい」が3割(30%)、「よくなった」はない。また、第2回アンケートでは、「苦しくなった(とても+少し)」が5割強(52.1%)。「同じくらい」が4割強(41.7%)、「よくなった」世帯はない。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートと比べて、「苦しくなった」回答者の割合が、若干小さいが、「よくなった」という回答者がいないことは、変わらないことがわかる。

### 13. 1年前に比べて預貯金はいかがですか

(あてはまるものを一つだけ選んで○をつけてください)

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 1. 全くなかった4人 (13.3%) | 2. かなり減った5人 (16.7%)    |
| 3. 少し減った 8人 (26.7%) | 4. ほとんど変わらない9人 (30.0%) |
| 5. 増えた 0人 (0.0%)    | ・ 無回答4人 (13.3%)        |

○回答者の4割強(43.4%)が1年前と比べて「減った(かなり+少し)」、3割(30.0%)が「ほとんど変わらない」状況であり、また、3割弱(26.7%)が「少し減った」と答えている。また、1割強(13.3%)の回答者が、「全くなかった」と答えている。「増えた」と答えた回答者はいない。

ちなみに、第1回アンケートによれば、「減った(かなり+少し)」世帯が、5割強(54%)、「ほとんど変わらない」世帯が2割強(24%)、「全くなかった」が1割強(14%)、「増えた」と答えた回答者はいない。また、第2回アンケートでは、「減った(かなり+少し)」世帯が、5割強(54.0%)、「ほとんど変わらない」が2割弱(18.8%)、「全くなかった」が1割強(12.5%)、「増えた」と答えた回答者は1名。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートと比べて、「減った」回答者の割合が、小さく、「ほとんど変わらない」の割合が大きく、「全くなかった」回答者の割合はほぼ同じであることがわかる。

### 14. 今後の生計の見通しはいかがですか。

(あてはまるものを一つだけ選んで○をつけてください)

- |                                |                    |
|--------------------------------|--------------------|
| 1. 今より楽になりそうだ1人 (3.3%)         |                    |
| 2. 今とほぼ同程度の暮らしができそうだ6人 (20.0%) |                    |
| 3. 今より苦しくなりそうだ14人 (46.7%)      | 4. わからない6人 (20.0%) |
| ・ 無回答3人 (10.0%)                |                    |

○回答者の5割弱(46.7%)が、今後の生計が「今より苦しくなりそうだ」と悲観的な見方を示している。また、「今とほぼ同程度の暮らしができそうだ」・「わからない」と答えた回答者は、2割(20.0%)いる。他方で、「今より楽になりそうだ」と答えた回答者が1名いる。

ちなみに、第1回アンケートによれば、「今より苦しくなる」が5割強(52%)。「同程度」と答えている世帯と「わからない」が2割(20%)。「楽になる」と答えている回答者はいない。また、第2回アンケートでは、「今より苦しくなりそうだ」が4割弱(39.6%)、「今とほぼ同程度の暮らしができそうだ」が3割強(31.1%)、「わからない」が2割弱(16.7%)、今より楽になりそうだと答えた回答者が1名いる。したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートと比べて、どの項目についても回答者の割合はほぼ同じであることがわかる。

## 15. 現在、困っていることは何ですか

(あてはまるものすべてを選んで○をつけてください)

- |                              |             |
|------------------------------|-------------|
| 1. 家賃の支払いが大変                 | 4人 (13.3%)  |
| 2. 島からの情報が届かない               | 5人 (16.7%)  |
| 3. 生活保護が受けられない               | 1人 (3.3%)   |
| 4. 近くに知り合いがいなくてさびしい          | 3人 (10.0%)  |
| 5. 町会費等が高い                   | 2人 (6.7%)   |
| 6. 医療費が高い                    | 5人 (16.7%)  |
| 7. 仕事がない                     | 1人 (3.3%)   |
| 8. 仕事が不安定で収入が少ない             | 0人 (0.0%)   |
| 9. 自分や家族の健康問題                | 13人 (43.3%) |
| 10. 現在住んでいるところにエレベーターがないなど不便 | 0人 (0.0%)   |
| 11. 未帰島の人への支援が打ち切れ苦しい        | 3人 (10.0%)  |
| 12. 三宅島内に住む所がない              | 1人 (3.6%)   |
| 13. 三宅島内の住宅の修繕費がかかる          | 9人 (30.0%)  |
| 14. 三宅島に行くのにお金がかかる           | 10人 (33.3%) |
| 15. 三宅島行きの飛行機の欠航が多い          | 8人 (26.7%)  |
| 16. その他                      | 4人 (13.3%)  |

(具体的に：母の介護で身動きが取れない。自宅や墓の管理が大変。他の人に管理費を払って見回りしてもらっている・母親が要介護度5で介護が大変・介護施設に入所しています。その意味で心配ありません・健康管理の保障)

・無回答7人 (23.3%)

○回答者の4割強(43.3%)が、現在困っていることとして「健康問題」をあげている。また、3割強の回答者が「三宅島に行くのにお金がかかる」(33.3%)、3割(30.0%)が、「三宅島内の住宅の修繕費がかかる」、3割弱(26.7%)が、「三宅島行きの飛行機の欠航が多い」と答えており、三宅島とのつながりを保つための金銭面等での困難を訴えている。

ちなみに、第1回アンケートによれば、「島の自宅の修繕費がかかる」が4割強(42%)。「近くに知り合いがいなくてさびしい」と「本人・家族の健康問題」が3割強(32%)。「家賃の支払いが大変」(28%)。「医療費が高い」(26%)、「(行政等からの)支援が打ち切られて苦しい」(26%)、「飛行場が再開されない」(26%)が3割弱、「島からの情報が無い」が2割強(24%)。「仕事が無い・収入不安定」(18%)。「(家が未修繕や村営住宅を借りられないなどで)島の中に住むところがない」(16%)が2割弱、「高濃度地区の立ち入り制限」が1割強(12%)である。

また、第2回アンケートでは、「自分や家族の健康問題」が5割弱(47.9%)、「三宅島内の住宅の修繕費がかかる」と回答した世帯が4割強(43.8%)、「三宅島に行くのにお金がかかる」が約2割強(22.9%)、「家賃の支払いが大変」(18.8%)と「三宅島行きの飛行機の欠航が多い」(18.8%)が2割弱、「医療費が高い」が1割強、「島からの情報が届かない」(12.5%)と「高濃度地区の立ち入り制限」(12.5%)、「近くに知り合いがいなくてさびしい」(10.4%)、「未帰島の人への支援が打ち切れ苦しい」(10.4%)が約1割である。

したがって、第3回目のアンケートでは、前2回のアンケートと比べて、三宅島とのつながりを保つための金銭面等での困難を訴えていることが特徴的である。

## C. 帰島に対する考えや要望について

### 16. 帰島に対する考えについて

#### 1. 帰島しない16人 (53.3%)

○回答者の5割強 (53.3%) が、「帰島しない」と答えている。

ちなみに、第1回アンケートによれば、「帰島しない」が2割強 (24%)、また、第2回アンケートでは、「帰島しない」が4割弱 (35.4%) である。

したがって、アンケートの回数を重ねるにつれて、つまり、三宅島から離れて生活している期間が長くなるにつれて、「帰島しない」と答える回答者の割合が、大きくなることがわかる。

#### <帰島しない理由>

●帰島不可能です・車の免許を返納したので、身動きがとれない。●だんだん高齢になり、島での生活が不安になってきた。●病院に行く回数が多いため、帰島できません。家も処分しました。

#### 2. いずれは帰島したい7人 (23.3%) (②を選んだ方はあてはまるものに○を付けて下さい。)

・無回答 7人 (23.3%)

2を選んだ方のみ、次の中であてはまるものに○を付けて下さい。

- |                                             |
|---------------------------------------------|
| 1. 健康に影響する火山ガス放出が低下または止まれば、帰島する。1人 (14.3%)  |
| 2. 村営住宅など島内に住宅が確保できれば、帰島する。 1人 (14.3%)      |
| 3. 健康状態がよくなれば、帰島する。 2人 (28.6%)              |
| 4. 仕事や職場が島で見つければ、帰島する。0人 (0.0%)             |
| 5. 子どもの学校の区切りがつけば、帰島する。 0人 (0.0%)           |
| 6. 十分な医療や福祉サービスが島内で受けられれば、帰島する。5人 (71.4%)   |
| 7. その他3人 (42.9%) (具体的に：三宅島に人工透析器があれば、帰島したい。 |

災害で痛められた海山含めた復興を急いで欲しい)

※パーセントの分母は、7人。

○「いずれは帰島したい」と答えた回答者7名のうちの約7割 (71.4%) が、「十分な医療や福祉サービスが島内で受けられれば、帰島する」と答えており、帰島できない主たる理由が、三宅島内の医療や福祉の貧弱さであることがうかがえる。

ちなみに、第1回アンケートによれば、「いずれは帰島したい」が6割強 (62%)、無回答 (14%)、また、第2回アンケートでは、「いずれは帰島したい」が5割強 (52.1%)、無回答 (12.5%)、である。

したがって、アンケートの回数を重ねるにつれて、つまり、三宅島から離れて生活している期間が長くなるにつれて、「いずれは帰島したい」と答える回答者の割合が、小さくなり、さらに、第3回目のアンケートでは、激減するとともに、無回答の割合が大きくなっていることがわかる。

他方で、帰島できない主な理由としては、第1回アンケートによれば、「本人・家族の健康問題」(32%) と「三宅島内の医療・福祉に関する施設・サービスの不十分さ」(18%)。また、「火山ガス」、「住宅問題」、「就労・就業問題」がある。その他の理由として、「子どもの教育の問題」がある。

また、第2回アンケートでは、「本人・家族の健康問題」(52.0%) と「三宅島内の医療・福祉に関する施設・サービスの不十分さ」(52.0%)、「高濃度地区が廃止されれば、帰島する」が2割 (20.0%) である。

したがって、アンケートの回数を重ねるにつれて、つまり、三宅島から離れて生活している期間が長くなるにつれて、「三宅島内の医療や福祉の貧弱さ」と帰島できない主な理由としてあげる回答者の割合が、大きくなることがわかる。

17. 今、あなたが、行政に望むことは何ですか。

(あてはまるものすべてを選んで○を付けてください)

- |                                                           |
|-----------------------------------------------------------|
| 1. 子どもの教育費に対する支援2人 (6.7%)                                 |
| 2. 健康保険や年金などの保険料の減免や補助 3人 (10.0%)                         |
| 3. 電気・ガス・上下水道などの基本料金の減免や補助 4人 (13.3%)                     |
| 4. 住宅ローンの利子補給 0人 (0.0%)                                   |
| 5. 税の減免 2人 (6.7%)                                         |
| 6. (1) 医療費の補助 3人 (10.0%) (2) 三宅島に人工透析器があれば帰島したい4人 (13.3%) |
| 7. 特別養護老人ホーム「あじさいの里」を増築し入所可能人数を増やす5人 (16.7%)              |
| 8. 生活費に対する支援3人 (10.0%)                                    |
| 9. 三宅島内の住宅の補修や再建への補助 8人 (26.7%)                           |
| 10. 家賃の減免や補助 5人 (16.7%)                                   |
| 11. 支援策などについてのきめ細かい情報の提供 3人 (10.0%)                       |
| 12. 三宅島への渡航費用の補助 12人 (40.0%)                              |
| 13. 三宅島—羽田間の飛行機の増便 5人 (16.7%)                             |
| 14. 雇用の促進や安定の支援 2人 (6.7%)                                 |
| 15. その他3人 (10.0%)                                         |

(具体的に：固定資産税の減額・福祉施設を島内に作ってほしい・昔は、役場で仕事を作って、働く人を増やしていた)

・無回答7人 (23.3%)

○回答者の4割が、行政に対して「三宅島への渡航費用の補助」(40.0%)を求めている。また、回答者の3割弱が、「三宅島内の住宅の補修や再建への補助」(26.7%)を行政に望むこととしてあげている。その他の項目についても、金銭面での支援を行政に求めていることがわかる。さらに、人工透析器の導入や特養老人ホームの拡張など、医療・福祉の改善・充実も切実に求めていることが、以下の自由回答からもわかる。

ちなみに、第1回アンケートによれば、「航空路の再開」が5割強(54%)。「三宅島への渡航費用の補助」が4割弱(38%)。「医療・年金の保険料の減免・補助」(26%)が3割強、「生活費への補助」(22%)が2割強。「ガス・電気・上下水道基本料の減免・補助」(20%)、「住宅の補修・再建への補助」(20%)、「支援策についての詳細な情報」(20%)が2割。「雇用促進・安定の支援」(14%)、「島内の特別養護老人ホームの早期再開」(12%)、「電気・ガス・上下水道などの基本料金の減免や補助」(12%)、「家賃の減免・補助」(12%)が1割強である。その他として、「住民票を(三宅島から現住所に)移してしまっただので、三宅村には要望できない」等がある。

また、第2回アンケートでは、「三宅島内の住宅の補修や再建への補助」(37.5%)と回答した世帯が4割弱、「三宅島への渡航費用の補助」(31.2%)が3割強、「税の減免」(27.1%)、「医療費の補助」(25.0%)と「電気・ガス・上下水道などの基本料金の減免や補助」(25.0%)と「特別養護老人ホーム『あじさいの里』を増築し入所可能人数を増やす」(25.0%)が3割弱、「生活費に対する支援」(22.9%)が2割強である。

したがって、どのアンケートにおいても、「三宅島への渡航費用の補助」と「三宅島内の住宅の補修や再建への補助」が、行政への要望として、上位にあがっていることがわかる。



最後に、要望等どんなことでも結構です。あなたのお考えやお気持ちなど、自由にご記入下さい。

・現在病院通いです。年齢的に足腰の痛み、夫の病氣、帰島しても大変故、現在に至っています。検査続き故、病氣も現状を保っている状況。

・帰宅する度、修繕を必要とする部分があり、今迄かかった補修費用もあり、負担となっている。三宅の自宅の電気・水道等基本料金を毎月支払っていることも、長い期間になると負担です。

・私は東京出身ですが、三宅に60年以上も住んでいた者です。現在は、都営住宅にありますが三宅が恋しいです。けれども、子供は皆東京です。島には私の身内は一人も居ません。主人は、17年前に亡くなって・・・子供が云うには、私も年老いて三宅の一人暮らしは無理だから、東京に居るよと云うのです。私は子供の家でお世話になるのは何かと気を使うのです。子供の云うことをきいて東京に居る次第です。けれど三宅島は忘れません。恋しいです。よく島節を唄っています。歩行困難でつらいのです。足が悪く情けない、悲しいです。

・私は、公務員ですので、生活においては安定している方です。むしろ、みな様のお手伝いができることがあれば、積極的にしていきたいと思います。

・長い間、皆様の情熱に感激し、益々のご健闘をお祈りするばかりです。

・三宅島への渡航費用の補助があったらと常々思っていました。三宅に帰る回数を増やすことができるのにと。

・一日も早く、人工透析器（の設置）を考えてほしい。皆さん、島に帰島したく、毎日々々大変な思いで住みなれない東京で苦しんでおります。自分の身に変えて考えたことがあります、大島、八丈島いろいろな島に人工透析器が導入されていますのに、三宅島の人達は何を考えているのでしょうか、皆さん、帰宅したく叫んでおります。

・私は、異動の届を出さず、住民票は、三宅島に残したままです。島へ帰れば、やりたい事が一杯あると思うからです。「島へ帰りたい」というのが私の希望です。しかし、私の医療上の問題で島へ帰れません。残念です。（医者の訪問治療を受けています）

・夫は平成22年7月に他界しました。家の修理なんかに息子が行くと言うけれど、交通費が大変です。一応島の税金は支払っています。人に頼んでやってもらってはいますが、火災保険本当に大変です。何とかいい方法はないでしょうか。

・三宅島ふるさと再生ネットワークの会長さんはじめスタッフの皆さんの熱意と島に対する愛着に、ただただ感謝あるのみです。ありがとうございます。

・（三宅島の復興のために、）①仕事をたくさんつくる。村おこしを計画する。雇用を厚くすれば、帰島島民が増える。②災害が理由で住めなくなった家を元通りにする。③美しいこの島を愛せる、住める、永住したい島にする。